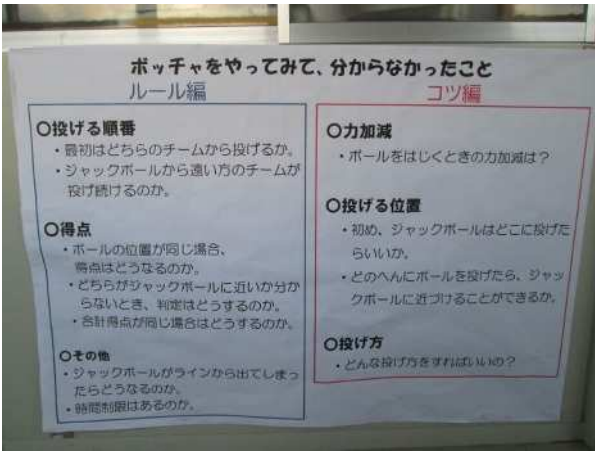


2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 一枝小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第5学年 1組 37名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (○ 総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義を学び、ボッチャを体験することで、スポーツに対する興味・関心の向上を図り、スポーツを楽しむ心を育成する。
5 取組内容	<p>①ボッチャの映像を見てボッチャに対する興味・関心をもたせる。</p> <p>②ボッチャを体験する。</p> <p>③体験を通して、よく分からなかったルールや、自分なりに気が付いたことを出し合い、クラス全員で共有する。</p>  <p>④インターネット等で競技のルールを調べ、分かったことをクラス全員で共有する。</p>



⑤ポッチャを体験しながら、競技のコツや戦術を考えて、クラス全員で共有する。



- ⑥練習を経て、総当たり戦を行う。
- ⑦オリンピック・パラリンピックの意義や精神について学ぶ。
- ⑧他学年に学んだことを発信する。
- ⑨学習を振り返る。

6 主な成果

導入の場面で競技の映像を見たときは、ほとんどの児童が「簡単そう」だと思っていたが、実際に体験してみると、「コントロールがうまくいかない」「カ加減が難しい」などの技術的な難しさに気付く児童が目立った。そして、そこがこの競技のおもしろさでもあることを感じているようであった。学習の中でルールや戦略を調べ、競技への理解をさらに深めたことで、友達との対戦にのめりこむ児童の姿が見られた。調べ学習や対戦等の活動を通して、ポッチャという競技の意義やパラリンピック競技についての理解を深めることができた。また、ポッチャを体験することで、スポーツに対する興味・関心の向上を図り、スポーツを楽しむ心を育成することができた。

	<p>【児童の感想（一部抜粋）】</p> <p>○一度ジャックボールに近付けることができるるとどんだのめりこんでいきました。ボッチャはみんなが楽しむことができるスポーツだからパラリンピックの種目にあるのだと思います。</p> <p>○最初にボッチャを見たときは簡単そうだったけど、実際にやってみるとボールのコントロールが難しかったです。プロの選手はすごいと思いました。もっとボッチャを上手になれたらいいなと思いました。</p> <p>○私は一度パラリンピックで本物のボッチャの試合を見てみたいです。</p> <p>○右腕を骨折していた友達も、左腕で楽しむことができていました。家に帰ってお母さんに話すと「けがをしてもできるスポーツはあまりないし、けがをしても体を動かせるからいいね。」と言っていました。こんな風にボッチャのことをたくさんの人に知ってもらいたいです。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>本校は小規模校の為、ボッチャを通して他学年や保護者との交流の機会を多くもつことができます。しかしながら、今年度はコロナ禍の為、交流が制限された。昨年度は保護者との交流を行い、非常に好評であった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>特にありません。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>昨年度からの取組を通して、少しずつ「ボッチャ」という競技の認知度が上がってきている。来年度以降もボッチャに親しむ活動を通して、他学年の児童や保護者との交流を図る一助となるように取り組んでいきたい。また、地域に発信できるような取組方を模索していきたい。</p>